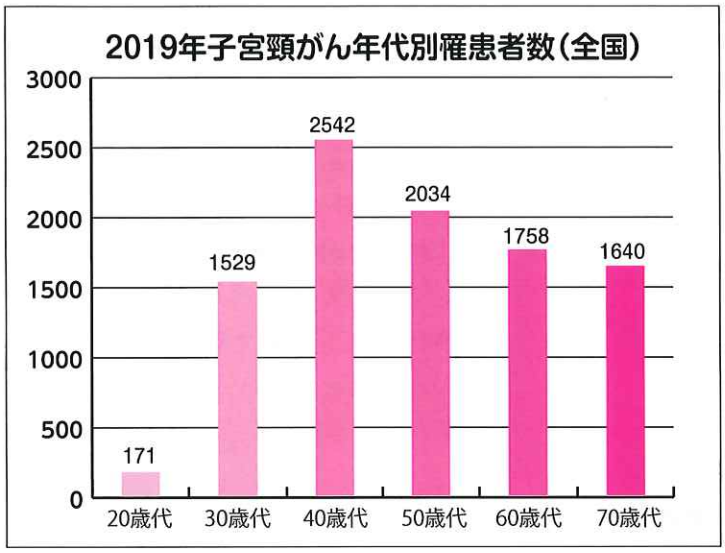
子宮頸がん検診のおすすめ

●若い女性に多いがんです

子宮頸がんは30歳代から急増し、40歳代でがんになる可能性が最も高く、50歳代以上の方も発症のリスクがあります。女性のがんの中で比較的多く、近年増加傾向にあります。2018年には秋田県内で413人が子宮がんと診断されました。



国立がん研究センター　がん情報サービス「がん登録・統計」より

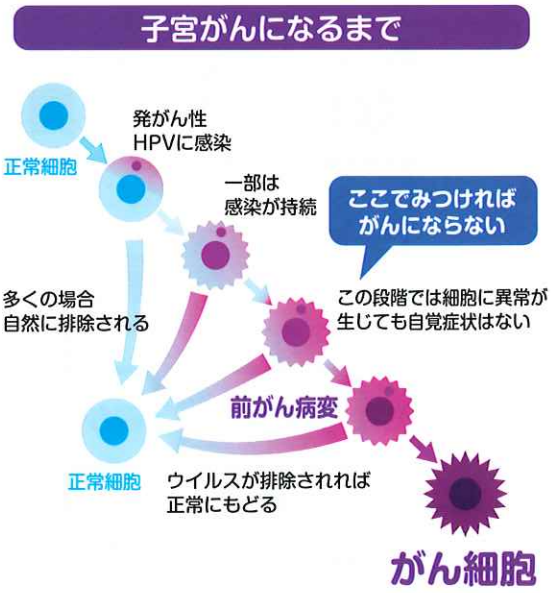
2018年がん部位別粗罹患者数（秋田県・女性）

	部位	人数
1位	大腸	908
2位	乳	826
3位	胃	599
4位	子宮	413
5位	肺	405

平成30年（2018）秋田県地域がん登録集計報告より

●子宮頸がんは予防することのできる病気です

子宮頸がんは近年20～30歳代で増加しています。
その原因の99%がヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によるものです。これは性交渉などにより感染しますが、90%以上は体内から自然に排除されます。ただし、ウイルスが排除されず感染が持続した場合、数年～数十年かけて子宮頸がんへと進行していきます。
子宮頸がんは初期の段階では自覚症状がほとんどみられませんが、定期的に検診を受けることによってがんの前の状態（前がん病変）を発見し、治療することができる病気です。
20～39歳の方は必ず毎年、40歳以上の方は２年に１度定期的に検診を受診してください。



・検査を受ける場合の服装は、スカートの着用が便利です。
・性交未経験者については、医療機関での受診をお勧めします。
・子宮がんの診断を受け治療を継続している方は検査の対象外となります。

公益財団法人 秋田県総合保健事業団

県北健診センター　TEL 0186(63)1837
中央健診センター　TEL 018(823)1520
県南健診センター　TEL 0187(73)6200

子宮頸がん検診はこうして行います

※膀胱を空にしておくと検査がしやすくなりますので、検診を受ける前に必ずトイレを済ませましょう。

受　付

↓

問診…気になる症状があればお申し出ください

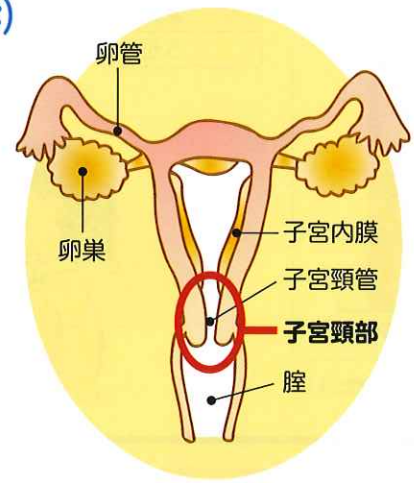
↓

子宮頸がん検診（子宮細胞診）

子宮入口の子宮頸部をブラシで軽くこすって検体を採取し、顕微鏡で調べます。

婦人科超音波検診

子宮頸がん検診のあとに、腟の中に超音波診断装置の細い筒状の器具（経腟プローブ）を入れて卵巣や子宮及びその周辺の状態を画像で判断します。



↓

異常なし → **次回の検診**

異常あり

必ず受診してください

↓

精密検査

- 異常なし → 次回の検診
- 前がん病変 → 定期的に精密検査
- がん → 治療

問診では、妊娠・出産の経験の有無、月経の状況、自覚症状の有無、過去の検診の受診状況などをお聞きします。

検査後の注意

検査のあとに出血することがありますが、ほとんどの場合、2～3日で止まりますので心配ありません

①出血のある時は入浴を控え、シャワー・かけ湯程度にしてください

②性行為は2日程控えてください

③出血量が増えたり、何日も続くようであれば、専門医にご相談ください

「要精密検査」の結果が届いたら・・・

精検依頼書と健康保険証をもって必ず専門医療機関を受診してください。

精密検査では、細胞診や組織診、HPV検査等を行います。

組織診

コルポスコープ（腟拡大鏡）を腟内へ挿入し、子宮頸部を拡大しながら観察し、病変部の細胞を採取する検査です。出血を伴うこともあります。

HPV（ヒトパピローマウイルス）検査

子宮頸部から採取した細胞を使って、細胞診と同時に検査します。HPVの感染の有無を調べる検査です。

精密検査の結果は自治体と関係医療機関で共有し、検診の精度向上に努めています。

検診ですべてのがんが見つかるわけではありません。また、がんでなくても検診の結果が「陽性（要精密検査）」となる場合もあります。しかし、子宮細胞診による子宮頸がん検診は子宮頸がんの死亡率・罹患率を減少させる有効性があります。早期発見のために、20～39歳の方は必ず毎年、40歳以上の方は２年に１度、定期的に検診を受診してください。

なお、気になる症状がある場合は次の検診を待たず、すぐに専門医を受診しましょう。